

大雨・土砂災害に

立ち向かう

近年増加している局地的大雨（ゲリラ豪雨）、そして、それに伴う土砂災害。

これらの特徴を知り、対策することが大切です。

持ち出し品の一例

- ① 非常時持ち出し用のリュックサック
- ② ティッシュ（ウエットティッシュも）
- ③ 携帯用ラジオ
- ④ 携帯電話
- ⑤ 携帯用予備バッテリー
- ⑥ 懐中電灯
- ⑦ 財布（現金）
- ⑧ 免許証・保険証
- ⑨ ライター
- ⑩ 乾電池
- ⑪ 手袋
- ⑫ 預金通帳
- ⑬ 印鑑
- ⑭ 持病の薬
- ⑮ はさみ・カッター
- ⑯ メモ帳
- ⑰ 筆記用具
- ⑱ 缶切り
- ⑲ 体温計
- ⑳ ナイフ
- ㉑ 飲料水（3日分）
- ㉒ 常備薬
- ㉓ 非常食
- ㉔ 携帯フランクセット（毛布）
- ㉕ マスク
- ㉖ 笛
- ㉗ レインコート
- ㉘ メガネ
- ㉙ ヘルメット

そのほかにも、上着・下着・タオルなどの衣類、女性は生理用品。小さなお子さんがいれば、育児用品（ミルク・離乳食・紙オムツ・ほ乳びん・おんぶひもなど）を持ち出してください。また、季節によっては、防寒着なども用意することが大切です。



「まずは正しい

情報を得ること」

予測のできないゲリラ豪雨

局地的大雨（ゲリラ豪雨）は、台風などとは違い、予測できないという点が最大の特徴です。局所的に積乱雲が発達し、1時間で100ミリ以上の猛烈な雨を降らせま

す。

また、土砂災害は、大きく

「法面崩壊」「土石流」「地すべり」の3種類に分かれます。

発生する前には、斜面のひび割れや地鳴りのような音がする、断面から水が噴き出すなどの前兆があることが多いです。ゲリラ豪雨などの局地的に多量の雨が降ることによって、地面が貯えられる水の限界量を超えてしまい、土砂災害の発生につながります。

想定できる被害は

ゲリラ豪雨のような局地的な雨の場合は外水氾濫はほとんどなく、主に内水氾濫が起きます。内水氾濫は別名都

市型水害」と呼ばれ、地表に

下水処理能力を超える雨が降ったとき、行き場のない水があふれ、洪水となってしまうことをいいます。

被害としては、低地の浸水

や停電などが挙げられます。

低地の浸水は、地下施設や高

架橋の下で発生することが多いです。高架橋の下では、よく車が浸水して身動きが取れなくなるケースがあります。

道路が冠水した場合はマンホールの蓋が外れたり、側溝

の場所が分からなくなったりと、避難するときなど通行する際にとても危険な状態になる可能性もあります。また、

雨が降っていない場合でも上流でゲリラ豪雨が発生した場合

は、河川の水位が急上昇し、気象注意報や警報が無くとも

災害が発生する危険性があるため、なるべく近寄らないようにする必要があります。

実際に災害の危険が高まった場合、または発生が予測される場合、まずは、テレビ・ラジオ・防災無線などで気象

に関する最新の情報を得ることが大切です。その上で、避難するかその場に留まるかなどの対策を考えましょう。避難が困難な場合、頑丈な建物の2階など高い場所に留まる方が安全な場合もあります。

いつ避難するかは判断は、時間やその人その人の状況があると

正しい情報が大切

実際に災害の危険が高まった場合、または発生が予測される場合、まずは、テレビ・

ラジオ・防災無線などで気象

に関する最新の情報を得ることが大切です。その上で、避難するかその場に留まるかなどの対策を考えま

しょう。避難が困難な場合、頑丈な建物の2階など高い場所に留まる方が安全な場合も

あります。いつ避難するかは判断は、時間やその人その人の状況があると

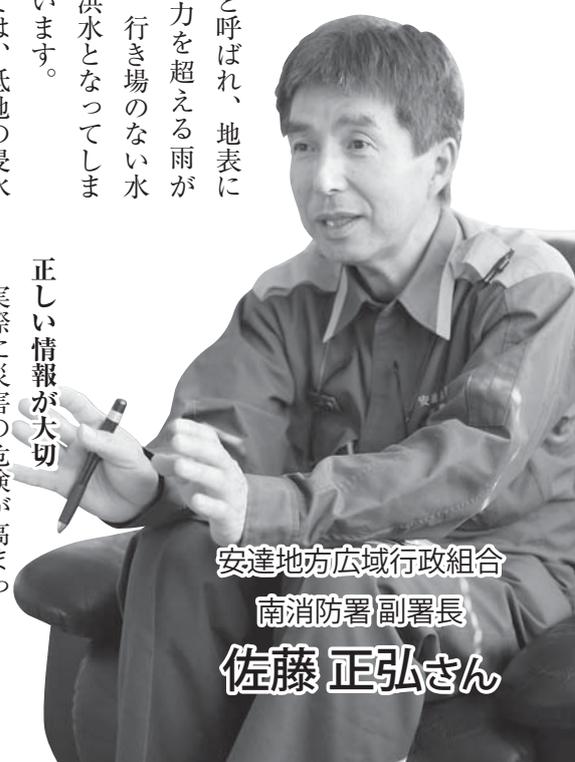
思います。災害を想定して、事前に避難所とそこまでのルートや、ハザードマップ

※で自宅の近くに災害が起りやすい場所を確認するなど

いつ起こるか分からない災害に備えることが必要です。

※ハザードマップ…自然災害による被害範囲を予測し、地図に表したものを。

ダウンロードは、<http://www.city.motomiya.lg.jp/soshiki/38/78.html>



安達地方広域行政組合

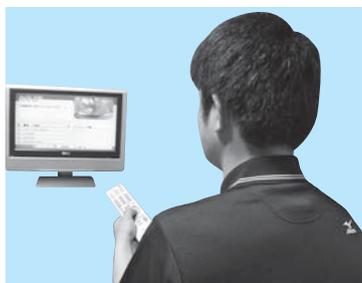
南消防署副署長

佐藤 正弘さん

水害だけじゃない!

最新災害情報の知り方

災害情報を把握するには、防災行政無線やFMモットコム（77.7メガヘルツ）のほかにもさまざまな方法があります。



① NHK 総合テレビチャンネルに合わせ、リモコンの「d（データ放送）」ボタンを押す。②リモコンの矢印で「安全情報・お知らせ」に合わせ「決定」を押す。③本宮市の災害情報が表示されます



緊急速報メール。本宮市からの避難準備情報や避難勧告などの情報が市全域の携帯電話に一齐に配信するメールです。配信時に本宮市のエリア内にある対応する携帯電話全てが配信対象です



大きな災害が起きた場合、電話がつながりにくい状況になります。そうした場合 NTT の災害用伝言ダイヤル「171」に電話して、メッセージを残したり、聞いたりして安否確認や集合場所の連絡ができます



①防災対策課窓口、または本宮市ホームページで配布している洪水ハザードマップ ②平成25年8月に発生した集中豪雨で起きた土砂崩れ ③6月に阿武隈川左岸沿いに完成した新しい防災センター（来月号で改めて紹介します）。災害対応の拠点として活用されます ④土砂災害からの救出を想定して訓練をする南・北消防署の職員